



つばめ農園おひさま便り

39

安溪貴子・安溪遊地

久しぶりの西表島

二〇二三年一月末の山口市阿東高原は、マイナス一〇度以下という寒さで、積雪も三〇センチに達しました。二月始めまでの一〇日間をかけて、雪国から南の島への旅にでかけました。目的地は西表島と与論島。総合地球環境学研究所でサンゴの島々の水循環を研究しているリンケージ・プロジェクトの一環で、久しぶりのフィールドワークです。福岡空港からの直行便で降り立った石垣空港で、新型コロナウイルスのPCR検査を受けてから西表島入りしました。島では、韓国モッポ大学校島嶼文化研究院のホン・ソングさんや、生物文化研究の当山昌直さん、琉球大学の高橋よさんらのプロジェクト仲間と合流です。私たちにあっては、コロナ禍などで動けなかった間に親しかった方が何人も亡くなられて、霊前に祈ることの多い旅でもありました。農閑期を生かして西表島には安溪大慧も私費で同行して、小学生以来三〇年ぶりに島の方々との再会を果たすことができました。

二〇二一年七月、西表島は、奄美大島、徳之島、沖縄島北部とともに世界自然遺産に登録されました。コロナ禍のなか、島に観光客が押し寄せるといふことにはまだなっていないそうです。しかし、観光・自然

島の暮らしのバランスをいかに保つかは難題です。

とくに、稲作を中心としてきた西表島西部の祖納（島ことばでスネ）と干立（同じくフタデ）という古くからの集落では、どうすれば昔ながらの島の良さや伝統文化を保てるか、ということが、大きな課題になっているようです。世界遺産対応をするための地元の新たな団体・西表財団からの依頼で、西表エコツーリズム協会を会場に、安溪遊地がお話をさせていただく機会をいただきました。二〇二二年六月三〇日に亡くなられた、島のリーダー・石垣金星さん（動画#生流転）の田んぼを、機械に頼らず無農薬で耕しているという若者たちが集まりました。稲作をめぐる行事の古謡を覚えようとしたけれど、実際に耕してみなければ判らない、と思ったというのです。

遊地は、話を、この四〇〇年ばかりの間の「#西表島の人口の変遷」から始めました。よく無人島と間違えような「原始の島」扱いを受けていますが、島には四〇〇年も昔からの遺跡があります。七世紀以降の人口急増の傾向は、一七七一年の大津波以後の激減へ、二〇世紀始めからの西部での炭坑開発による増加は、戦後の閉山とその後の過疎によって減少し、一九七七年に底を打ちました。二つの山と二つの谷を経て、観光開発によって増加しつつあるというの

西表島の宴で遊地の手を握って離さない旧友と
その間に石垣昭子さん（ホン・ソングさん撮影）



が現在です。石垣金星さんは、だまされて連れてこられた炭坑夫たちの「#緑の牢獄」だった炭坑時代と重ねて、「昔炭坑、今観光」と警告を発していました。

これほどの人口激変ではなくても、全国で高齢化と後継者不足による一次産業の衰退が進み、集落そのものの維持も困難になっています。どうやって祭りを続け、伝統文化を維持しているかという、西表島の経験は、日本で最初にエコツーリズム協会が

できた島でもあり、参考になるところが大きいと思われまます。

祭を受け継ぐ

西表島の伝統集落では、村の行事や稲作にまつわる祭が毎月のようにあります。新春ヤマネコマラソンなどの町の大きな行事にも対応します。ことにプリヨイ（豊年祭）と、稲作のお正月とされるシチ（節祭）は学校も休日になり子どもも参加する大きな祭りです。西表の祭はイベントではなく、土地の神々への感謝と祈り、伝統芸能の奉納が柱になって、シチは、国指定の重要無形民俗文化財の指定を受けています。人々はこの日のために全員総出で何日もかけて踊りを練習し、祭祀道具、料理の準備をし、コロナ禍以前には、島外に出ている人も大挙して帰郷して参加してきました。そして、干立集落では、島外から受け入れた移住者たちに、伝統の祭や芸能を受け継がせています。困難はあっても、そのように外に向かって開かれた地域の未来は輝いています。

祭の根幹をなすのは、ウガンと呼ばれる御嶽での祈願です。それを担うのがチカ（神司）と呼ばれる、神々と人間との間をつなぐ女性と、チヂビという介添役の男性です。二〇二二年の冬至の日、数ある御嶽

のひとつのクシムリ（後森）御嶽で、二〇年間この重責を勤めた二人から、次のチカ・チヂビへの交代が行われました。金星さんが亡くなって、その引き継ぎ式のやり方を知る人がもう誰もいない、と西表島の紅露工房の石垣昭子さんからSOSが届いたのは、昨年晩秋でした。

まことに幸いなことに、五三年間この御嶽のチカを勤めた女性からの、私どもの聞き書き「#島をまもって半世紀」の中に、そのツギユリという神司交代式のやり方が入っていました。昭子さんの工房では、そのやり方にそって、伝統の染織の技を生かした七枚の着物を新調して提供されました。今回の滞在では、元のチヂビのお宅に招かれて、金星さんの旧友も集まった席で、ツギユリの次第の動画を見せていただきました。西表島の神々に守られた自然とそれを日々の暮らしの中でつないでいる人々の努力と喜びのいくらかを、私どもも分けていただけました。あんけいたかこ・あんけいゆうじ（あんけいたかこ・あんけいゆうじ）

QRコードにスマホをかざすと、各サイトが見られます。文中の#マークはウェス検索用です。



  a@ankei.jp
<http://ankei.jp>